

サッカーとフットサルのコーチング比較に関する研究 —特にファーストタッチについて—

高橋 謙太 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 植田 実

キーワード：ファーストタッチ スペース 指導

1. 緒言

フットサルをプレーする中で、ファーストタッチで空いているスペースにボールを動かす選手が少なく、ファーストタッチを足元に止める選手が多い。ファーストタッチで動かすことは、難しい技術である。ゴールデンエイジの時期から、ボールコントロールを養う指導を受け、練習しなければ習得出来ない。サッカーでは、ボールを動かす事に注目しているのに、フットサルでは注目されていないのではないだろうか。そこで本研究は、サッカーとフットサルのコーチングを比較して相違点を見出し、今後フットサルのファーストタッチのコーチングに何が必要であるのか研究することを目的とする。

2. 研究方法

方法：インタビュー方式

対象者：小学生年代のサッカーチーム指導者 9名とフットサルチーム指導者 2名とフットサルスクール指導者 6名

分析：インタビュー結果をサッカー指導者とフットサル指導者で比較

3. 結果と考察

ファーストタッチの指導で、サッカーでは、「ボールを止める技術が難しいので、ボールを止める指導をして周りを見る余裕が出来るようになってから、状況に応じたファーストタッチをする」フットサルチームでは、「ファーストタッチで少しでも動かす指導やパスやシュ

ートで常に動かす」という結果であった。フットサルではボールを動かす事に注目されていないのではないかと考えていたが、実際フットサルの指導現場ではボールを動かすことに注目されていた。フットサルで足元にボールを止める選手が多いのは、ゴールデンエイジ以降にフットサルを始めた場合が多く、フットサルの基礎技術を習得出来ていないのではないか。そのため、ボールを動かすと奪われる可能性から、まずボールを止めるのではなかと推察する。

4. 結論

サッカーとフットサルの指導に相違点があったが、サッカー・フットサル共にボールを動かす事に注目した指導をしているため、フットサルのファーストタッチのコーチングに必要なものが共通していた。しかし、サッカーとフットサルでは、競技特性に違いがあるため、「ボールを動かす目的」「ボールを動かす技術」に相違点がある。そのため、指導する上で競技特性を理解し、サッカーとフットサルを区別する必要がある。そして、初心者を中心としたフットサルスクールよりも、高い技術指導を受けることが出来る環境を作る必要がある。

参考文献

- ・日本サッカー協会
<http://www.jfa.or.jp/jfa/databox/index.html>
- ・財団法人フットサル連盟
<http://futsal.jfa.or.jp/futsal/index.html>